

# 2015年度 センター試験 本試験 日本史 B

## 第1問 日本の移民と海外交流の歴史

出題範囲	古代～近代の外交・文化史
難易度	★★☆☆☆
所要時間	8分
傾向と対策	2015年度の第1問は、古代～近代の外交史とそれに付随した文化をテーマに出題された。国際化が進化する今日の社会において、日本史のセンター試験では外交史が出題される傾向にある。そのため、国内の政治史だけでなく、外交史にも注意を払っておいて損はない。古代から近世においては対東アジア、近代においては対欧米の視点を意識しながら、復習しておくとういだろう。

### A

問1  正解は③

難易度 ★☆☆☆☆

#### 解説

- ① 誤 北米・その他への移住者は、1920年代までつねに全体の半分以上を占めていたことがグラフより読み取れる。
- ② 誤 中南米への移住者は、1926-30年にいったん増加していることが読み取れるため、「減少し続けた」とは言えない。
- ③ 正 「満州事変から敗戦まで」とは、1931（昭和6）年から1945（昭和20）年までを指す。この期間において「満州国」への移住者は全体の半分以上を大きく超え、約3分の2を占めていたことが読み取れるので、この記述は正しい。
- ④ 誤 「英米との開戦」とは、日本軍がマレー半島に上陸するとともに、真珠湾を奇襲攻撃して、対英米に対する宣戦布告を行った1941（昭和16）年12月のことを指す。1941-45年にかけて南洋方面への移住者は極端に減少していることが読み取れる。
- 以上より、正解は③である。

問2  正解は②

難易度 ★★★☆☆

#### 解説

- ① 誤 桂・タフト協定は、1905（明治38）年に結ばれ、アメリカのフィリピン統治と日本の韓国に対する宗主权とを互いに承認しあうものである。よって、これに基づきアメリカが日本の朝鮮半島からの撤兵を求めたという記述は誤りである。

- ② 正 日本人移民排斥運動<sup>はいせき</sup>は、20 世紀初頭にカリフォルニア州を中心に激化したが、この背景としては、カリフォルニア州へ日本人労働者が大量流入したことや黄禍論<sup>こうかりん</sup>の影響があったほか、日本の南満州権益独占<sup>なんまんしゅうけんいしやく</sup>に対してアメリカが反発していたことなどが挙げられる。以上より、この記述は正しい。
- ③ 誤 石井・ランシング協定は、第一次世界大戦中の 1917 (大正 6) 年に結ばれた、日本の中国における「特殊権益<sup>とくしゅけんいしやく</sup>」とアメリカの中国における「門戸開放<sup>もんこかいほう</sup>」とを相互に承認しあう協定なので、この記述は正しくない。ちなみにこの協定は、1923 (大正 12) 年、の九カ国条約<sup>きゅうかこくじょう</sup>に基づき破棄された。
- ④ 誤 「第一次世界大戦後に結ばれた条約」とは、1922 (大正 11) 年に締結されたワシントン海軍軍縮条約のことを指す。この条約では、英：米：日：仏：伊の主力艦保有比率が 5：5：3：1.67：1.67 と規定された。したがって、「アメリカと同量の」という記述は正しくない。
- 以上より、正解は②である。

### ◆参考 アメリカの門戸開放政策

19 世紀の終わり、中国進出競争において他の列強国に対して後れを取っていたアメリカは、門戸開放・機会均等・領土保全を宣言し、中国における通商上の機会均等と領土的・行政的保全を主張した。一方、日本は日露戦争以後、南満州を中心に中国大陸での権益拡大<sup>はか</sup>を図り続けたため、アメリカの門戸開放政策とたびたび衝突が生じた。1917 年の石井・ランシング協定<sup>いしゐらんしやうけいてい</sup>によってこの衝突を緩衝<sup>かんしやう</sup>させる試みがなされたが、第一次世界大戦後に締結された九カ国条約によってこの協定は破棄された。九カ国条約によってアメリカは列強国に門戸開放政策を認めさせることに一応成功したが、日本は満州事変以後この条約に対する違反を重ね、再び日米間で衝突が起こった。そして、この衝突は後に太平洋戦争へとつながっていく。

問 3 3 正解は③

難易度 ★★★★★

#### 解説

- X 誤 下線部 c に示されたこの資料は朱印状<sup>しゆいんじやう</sup>であり、朱印状は天皇からではなく幕府から与えられたので、この記述は誤りである。
- Y 正 史料中に「呂宋国に到る舟なり」という記述があり、この呂宋とは現在のルソン島<sup>るそん</sup>（フィリピン諸島最大の島）のことを指しているため、この記述は正しい。同島にはマニラ（フィリピンの首都）がある。
- 以上より X - 誤、Y - 正の組み合わせとなる③が正解である。

## B

問 4 4 正解は①

難易度 ★★★★★☆

## 解説

- ア **蘭溪道隆** (1213-78) は 1246 (寛元 4) 年に南宋から来日した**臨済宗**の僧で、鎌倉幕府の 5 代執権**北条時頼** (1227-63) の帰依を受けて鎌倉の**建長寺**の開山 (寺院の創始者) となった。一方、**桂庵玄樹** (1427-1508) は室町中期から戦国期に活躍した五山の禅僧で**朱子学者**である。**応仁**の乱を避けて西国で儒書を講じ、薩摩で**薩南学派**の基礎を築いた。ちなみに、**無学祖元** (1226-86) は 1279 (弘安 2) 年に 8 代執権**北条時宗** (1251-84) の招きを受けて南宋から来日した臨済宗の僧で、**円覚寺**の開山となった。
- イ **博多**が入る。博多は古代後期より、**日中・日朝貿易の拠点**として発達した。一方、**堺**は 15 世紀後半より**勘合貿易・南蛮貿易**で繁栄した港町である。

以上より、正解は①である。

問 5 5 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

## 解説

- ① 誤 **雪舟** (1420-1502?) は、日本の**水墨山水画**を完成させた人物なので、この記述は誤り。**濃絵**とは桃山時代に流行した障壁画の、大きい画面に金箔や濃厚な岩絵具を用いて濃彩を施した絵画のことである。
- ② 正 **禅宗様**は、13 世紀後半から盛んになった様式で、この記述は正しい。**円覚寺舍利殿**に代表される整然とした美しさが特徴である。
- ③ 正 **村田珠光** (1423-1502) は、15 世紀後半に活躍した**侘茶**の開祖である。侘茶は、16 世紀前半に**武野紹鷗** (1502-55) に引き継がれ、16 世紀後半に**千利休** (1522-91) によって茶の湯として大成された。
- ④ 正 **枯山水**は、水を用いずに砂と石で流水や自然美を表現する**作庭様式**で、**竜安寺石庭**や**大徳寺大仙院庭園**に代表される。

以上より、正解は①である。

## ◆参考

## ◆参考 鎌倉時代の建築様式

	特徴	代表的な建築物
禅宗様	整然とした美しさ	円覚寺舍利殿
大仏様	大陸的な雄大さ・豪放な力強さ	東大寺南大門 <small>なんだいもん</small>
和様 <small>わよう</small>	古くから日本で使われていた寺院建築様式	蓮華王院本堂 (三十三間堂) <small>れんげ おういんほんどう さんじゅうさんげんどう</small>
折衷様 <small>せつちゅうよう</small>	大陸から伝来した新様式の構築法を和様に取り入れた	観心寺金堂 <small>かんしん じ こんどう</small>

問 6 6 正解は⑤

難易度 ★★★☆☆

## 解説

- I くだら 百済は 660 年に、こうくり 高句麗は 668 年にいずれも唐・とう しらぎ 新羅によって滅ぼされた。この後、百済から亡命してきた人々によって先進技術や知識が輸入され、日本の律令国家建設は一層加速した。よって、この記述は 7 世紀のことを指している。
- II ぼっかい 渤海は、7 世紀末から 10 世紀までまんしゅう えんかいしゅう 東満州・沿海州に栄えた国で、唐・新羅との対立関係から日本と良好関係を築き、通交を盛んに行った。
- III ごきょうはかせ 五経博士は 6 世紀初めけいたい の継体天皇の時代に、れきはかせ いはかせ 暦博士や医博士は 6 世紀中ごろきんめい の欽明天皇の時代に百済より来日した。

以上を踏まえて年代順に配列すると、III (6 世紀) → I (7 世紀後半) → II (7 世紀末以降) となり、⑤が正解である。

(制作：帆玉光輝，梶山真嗣)

# 2015年度 センター試験 本試験 日本史 B

## 第2問 原始・古代の農業と社会

出題範囲	古代の社会史
難易度	★★☆☆☆
所要時間	8分
傾向と対策	2015年度の第2問は、原始から古代、中世にかけてが出題範囲だった。狩猟社会から農業社会への変遷を追いながら、稲作や土地所有といった社会史についても出題されている。社会史は政治史とは異なり、いつ・どこで・誰が・どのように行ったのかが明確ではない。このため年号や人名、事件名称といったキーワードで覚えていくのとは別の学習方法で習得する必要がある。このような設問への対策としては、当時の生活を描いた絵巻物や社会制度を表した図表などを学習に使うとよいだろう。特に、土地制度は、古代から近代までの流れを通史として理解しておかなければならないし、日本史を学ぶうえでの重要な観点でもある。時間をかけて、流れをつかみ整理しておく必要がある。

### A

問1 7 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

#### 解説

- ① 誤 約1万年前、温暖化によって植生が変化したことで、マンモスなどの大型獣は日本列島から絶滅し、それらに代わってニホンジカ・イノシシなどの中小動物が増加した。よってこの文は誤りである。動きの速いこれらの中小動物を狩猟するために弓矢が発達した。
- ② 誤 細石器は、打製石器の一種でとても小さい。これは狩猟用の尖頭具などとして用いられていたものであるから、この記述は誤りである。木の実などをすりつぶすために使われていたのは石皿・すり石で、これらは磨製石器である。
- ③ 誤 日本で本格的に青銅器が導入されたのは弥生時代である。また、食物を煮炊き・貯蔵するために用いられたのは土器のため、この記述は誤りである。青銅器は祭器として用いられた。ちなみに同時期に伝来した鉄器は武器や道具として用いられた。
- ④ 正 かつて日本は大陸と地続きであったが、温暖化によって海面が上昇し、約1万年余り前にはほぼ現在の形となった。日本列島は海に囲まれていたため、丸木舟や網などの漁労用具が発達した。よってこの記述は正しい。
- 以上より、正解は④である。

問2 8 正解は④

難易度 ★★★☆☆

**解説**

X b これは脱穀に用いられた**豎杵**である。脱穀はこれと**木臼**を用いて行われていた。

Y d これは稲の穂首狩りに用いられていた**石包丁**である。

以上により、X - b、Y - dになる組み合わせの④が正解である。

## ◆参考 弥生時代の木製農具

○**木鋤・木鍬**：耕作具

○**木臼・豎杵**：脱穀具

○**石包丁**：収穫具

○**田下駄**：足が湿田にはまり込むのを防ぐための用具

○**大足**：田に堆肥や青草などの肥料を踏み込むための用具

問3 9 正解は②

難易度 ★★★☆☆

**解説**

a 正 氏は血縁を中心に構成された同族集団で、**氏上**が率い、ヤマト政権の職権を分担したので、この記述は正しい。

b 誤 ヤマト政権が設けた直轄地は**屯倉**と呼ぶ。**田荘**は豪族の私有地である。

c 誤 『魏志』**倭人伝**は、3世紀の**邪馬台国**について記述がされている史料なので、これは正しくない。**倭の五王**に関する記述があるのは『宋書』**倭国伝**である。また、倭の五王が朝貢したのは中国の**南朝**である。

d 正 ヤマト政権は、**名代・子代**と呼ばれる直轄民を各地に設置した。また、**豪族の私有民**は**部曲**と呼ばれる。以上により、正しい組合せはaとdであり、正解は②である。ヤマト政権の氏姓制度について「参考 ヤマト政権の氏姓制度」にまとめたので参照してほしい。

## ◆参考 ヤマト政権の氏姓制度の概要

氏姓制度	
成立時期	5 世紀後半から 6 世紀。
氏とは？	ヤマト政権における政治的・社会的集団。その首長は氏上 <sup>うじのかみ</sup> と呼ばれ、氏人 <sup>うじびと</sup> （氏の所属者）を率いた。
姓とは？	大王がそれぞれの氏の政治的地位や職掌に応じて氏に与えた称号。
土地	豪族は田荘 <sup>たどころ</sup> と呼ばれる私有地を領有。 ヤマト政権は、屯倉と呼ばれる大王家の直轄領を設定。
人民	豪族は部曲 <sup>かきべ</sup> と呼ばれる私有民を領有。 ヤマト政権は、名代・子代の部と呼ばれる大王家の直轄民を領有。
職務分掌	職務は伴造 <sup>とものみやつこ</sup> と呼ばれる豪族や、その配下の伴 <sup>とも</sup> と呼ばれる集団によって分掌 <sup>ぶんしょう</sup> された。伴造は百済から渡来した技術者集団を品部 <sup>しなべ</sup> に編成し、統率した。
地方統治	従来、地方を統治していた有力豪族を国造に任命し、統治権を認めた。

## B

問 4 10 正解は①

難易度 ★★★☆☆

## 解説

X 正 三世一身法<sup>さんぜいっしんのほう</sup>では、新たに灌漑施設<sup>かんがい</sup>を設けて開墾した場合は三代にわたって、既存の灌漑施設を利用して開墾した場合は一代に限って墾田<sup>こんでん</sup>の所有が認められた。よってこの記述は正しい。

Y 正 行基<sup>ぎょうき</sup>（668-749）は社会事業を行いながら仏教を布教し、大仏造営に協力したことで、745 年に大僧正<sup>だいそうじょう</sup>に任じられた。

以上より X - 正, Y - 正の組み合わせになる①が正解である。

問 5 11 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

## 解説

I 健児<sup>こんでい</sup>の制度は、8 世紀末桓武朝<sup>かんむ</sup>の時代に軍団兵士制に代わって国府<sup>こくふ</sup>や兵庫<sup>へいこ</sup>の警備のために採用された。

II 大宝令<sup>たいほうりょう</sup>が施行されたのは 701 年である。

III 尾張国<sup>おわり</sup>の国司藤原元命<sup>もとなが</sup>が、「尾張国郡司百姓等解<sup>おわりのくにぐんじひやくしやうらげ</sup>」によって訴えられたのは 988 年のことである。10 世紀以降、朝廷が地方を直接支配できなくなっており、国司に地方統治を委任していた。そのため、元命のような強欲な国司が各地で続出した。朝廷の地方支配については「参考 律令制崩壊と荘園」にまとめたので



参照されたい。

以上、年代順にⅡ（701年）→Ⅰ（8世紀末）→Ⅲ（988年）の組み合わせになる③が正解である。

#### ◆参考 律令制崩壊と荘園

##### ○初期荘園の衰退

律令制の崩壊は、律令制下の<sup>こくぐんせい</sup>国郡制に依存して成立していた（独自の荘民は持たず周辺農民への<sup>ちんそ</sup>賃租で耕作されていた）初期荘園の衰退につながった。10世紀までには多くの初期荘園が衰退していった。

##### ○寄進地系荘園の誕生

<sup>だいご</sup>醍醐・<sup>えんぎ</sup>村上天皇の<sup>てんりやく</sup>延喜・天暦の治の頃、戸籍・計帳の制度は崩れ、律令に基づいた租庸調などの税の徴収はできなくなっていた。そのため、政府は国司に一定額の税の納入を請け負わせ、地方の政治の運営も国司に大きく委ねる方針を取ることに決めた。任国に赴任する国司は徴税請負人の色が強くなり、<sup>ずりよう</sup>受領と呼ばれるようになった。受領は有力農民（<sup>たと</sup>田堵）に田地の耕作を請け負わせ、その田地には田堵の名が付けられ<sup>みょう</sup>名または<sup>みょうでん</sup>名田と呼ばれるようになった。田堵の中には、国司と結んで勢力を伸ばし、大規模な開発を行って大名田堵となる者も現われた。さらに11世紀になると、現地で作人や下人を使って開発を進めた大名田堵は<sup>かいはんしゅ</sup>開発領主と呼ばれるようになり、彼らの中には有力寺院や貴族に土地を寄進し、その権威を利用して租税を逃れようとするものが現れた。寄進地系荘園の誕生である。

##### ○寄進地系荘園の院への集中

上皇が強大な権力を握るようになると、土地の寄進先も院へとシフトしていった。院に寄進された荘園は、院自身が国の収益を握る<sup>いんぶんこく</sup>院分国に次いで、院政における重要な経済基盤となった。

問6 12 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

#### 解説

- ① 誤 史料3～4行目に「<sup>じゅみょう</sup>寿妙の<sup>たかかた</sup>末流<sup>さねまさきょう</sup>高方の時…実政卿を以て領家と号し…」という記述があるため、「**開発領主**寿妙」ではなく寿妙の孫である**中原高方の寄進**により、藤原実政が**領家**となったことがわかる。よって、この記述は誤りである。
- ② 正 史料4行目に「高方は…<sup>あずかりどころ</sup>預所職となる」という記述があるので正しい。
- ③ 正 史料5～6行目に「実政の末流<sup>がんさい</sup>願西…<sup>こくが</sup>国衛の乱暴を防がず、この故に願西、領家の得分二百石を以て、<sup>かやのいん</sup>高陽院内親王に寄進す。」という記述があるので、正しい。
- ④ 正 史料末において「願西…高陽院内親王に寄進す。…これ則ち本家の始めなり」とあるので、この記述は正しい。

以上より、正解は①である。



## ◆参考 寄進地系荘園～鹿子木の事～

- 一、当寺の相承は、開発領主<sup>しやみ</sup>沙弥寿妙嫡々の相伝なり。
- 一、寿妙の末流高方の時、権威を借らむがために、実政卿を以て領家と号し、年貢四百石を以て割き分ち、高方は庄家領掌進退の預所職となる。
- 一、実政の末流願西、微力の間、国衙の乱妨を防がず。この故に願西、領家の得分二百石を以て、高陽院<sup>かやのいん</sup>内親王に寄進す。件の宮薨去<sup>こうきよ</sup>の後、御菩提<sup>しょうくどくいん</sup>の為に、勝功德院を立てられ、かの二百石を寄せらる。其の後、美福門院の御計として御室に進付せらる。これ則ち本家の始めなり。

『東寺百合文書』

(現代語訳)

- 一、この荘園は、開発領主である沙弥寿妙の子孫が代々継承してきたものである。
  - 一、寿妙の子孫高方の時、権威を借りるために藤原実政卿を領家として年貢 400 石を上納し、高方は現地を管理する預所職となった。
  - 一、実政の子孫である願西は力がなかったので、国司の干渉を防げなかった。そのため、願西は領家の得分のうち 200 石を高陽院内親王に寄進した。内親王がお亡くなりになった後菩提を弔うために勝功德院を建てられ、その 200 石を寄進された。その後、美福門院のお計らいで仁和寺に寄進された。これがこの荘園の本家の始まりである。
- 11 世紀～ 12 世紀、開発領主が受領からの干渉や税負担から逃れるために、上記の鹿子木荘のような寄進地系荘園が発達した。税収維持のために朝廷はたびたび荘園整理令を発令するが有効なものとはならず、本格的な荘園整理は 1069 年の後三条天皇による延久の荘園整理令まで待たなければならなかった。

(制作：帆玉光輝，瀧拓也)

# 2015年度 センター試験 本試験 日本史 B

## 第3問 中世から近世初期までの政治と社会

出題範囲	中世の政治史
難易度	★★★☆☆
所要時間	8分
傾向と対策	2015年度の第3問は、中世から近世までの武士政権の地方統治、外交政策、通商政策から出題されている。ここでは、地理的な知識を要求される設問に注目したい。日本史を学ぶ上で日本の地理を知識として習得することは当然重要であり、例えば問2に登場する六波羅は、平氏政権の時代から京都における武士政権の拠点となっていたが、その理由は関東や東国に抜ける街道が通っていたからだ。このように、地理の知識もおさえておけばこのような問題に遭遇した時に対応しやすくなるし、日本史の細部もより覚えられるので、知識も蓄えやすくなる。

### A

問1 **13** 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

#### 解説

- ア どうり（道理）が入る。御成敗式目は源頼朝以来の先例と道理と呼ばれる武家社会の慣習に基づいて制定された。
- イ 武家が入る。御成敗式目は制定当初幕府の勢力範囲内に限って適用させたものであった。この書状では、公家との衝突を避けるため、このことが強く主張されている。
- ウ 律令が入る。御成敗式目は武家に対するものであって、従来の公家法を否定・改正するものではないと述べている。公家法とは律令やそれ以来の法体系のことを指す。

以上より、語句の組み合わせとして正しいのはア-どうり（道理）、イ-武家、ウ-律令で、正解は④である。

#### ◆参考 北条泰時書状

さてこの式目をつくられ候事は、何を本説として注し載せらるるの由、人さだめて謗難を加ふる事候か。ま事にさせる本文にすがりたる事候はねども、たゞどうりのおすところを記され候者也。…この式目は只かなをしれる物の世間におほく候ごとく、…武家の人へのはからひのためばかりに候。これによりて、京都の御沙汰、律令のおきて、聊もあらたまるべきにあらざ候也… 『貞永式目唯浄裏書本』  
(現代語訳)

さて、この式目を作りましたことに対して、何を原典として作られたのか、と非難する人もいるでしょう。

確かにこれといった原典に則っているということはありませんが、ただ道理の指し示すことを記したものであります。…この式目は仮名しか知らない人が世間に多くいるように、…武家の人々だけに対する処置です。これによって、朝廷の御裁断や律令のおきてが変わることはまったくないのであります。

この史料は 1232 年に制定された御成敗式目の趣旨を説明した、当時の執権北条泰時<sup>やすとき</sup>（1183-1242）が六波羅探題で弟の北条重時<sup>しげとき</sup>に宛てた手紙である。この史料から御成敗式目は、武家社会の道德である「道理」と頼朝以来の「先例」によって書かれたこと、またあくまで武家社会のための法典であって、幕府の勢力範囲下のみで適用されるものであったことがわかる。そもそもこの手紙は、朝廷から式目に関して非難を受けた際に説明するべき趣旨について書かれたもので、よって式目は公家法に影響を与えるものではないという、公家法に対する一定の配慮が見られる。しかし、それは裏返せば幕府の勢力範囲内においては律令をはじめとする公家法は適用されないということも示していて、武家社会が公家法からの独立を宣言したのものであるとも言える。

問 2 14 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

- a 正 六波羅探題<sup>ろくはらたんたい</sup>は、朝廷の監視と尾張国（後に三河国<sup>みかわのくに</sup>）以西の御家人の統轄を担った幕府機関であり、この記述は正しい。
- b 誤 六波羅探題は 1221 年の承久の乱<sup>じょうきゆう</sup>に際し、従来の京都守護に代わるものとして設置された。正中の変<sup>しょうちゆう へん</sup>とは、1324 年に後醍醐天皇<sup>ごだいご</sup>が側近と討幕を計画したが、露見し失敗におわった事件。この記述は正しくない。
- c 誤 宝治合戦<sup>ほうじ かつせん</sup>とは、1247 年に起こった北条時頼<sup>ときより</sup>（1227-63）と三浦泰村<sup>やすむら</sup>との合戦である。これによって、三浦一族は滅亡した。この記述は正しくない。
- d 正 1333 年、足利高氏<sup>たかうじ</sup>（尊氏<sup>たかうじ</sup>、1305-58）が六波羅探題を、新田義貞<sup>にった よしさだ</sup>が鎌倉をそれぞれ攻め落としたことで鎌倉幕府は滅亡した。この記述は正しい。

以上より、組み合わせが a と d となる②が正解である。

問 3 15 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

- X 正 座<sup>ざ</sup>とは、中世に商人・職人・芸能民らが結成した同業者組織である。鎌倉時代の京都にはすでに存在していて、室町時代になって種類・数が増えた。
- Y 誤 天文法華の乱<sup>てんぶん ぽっけ</sup>とは、1536 年に天台宗総本山である延暦寺<sup>えんりやくじ</sup>（山門）の宗徒が、京都町衆による法華一揆を破った事件である。

以上より、正解は②である。

## B

## 問 4 16 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

## 解説

エ 本能寺の変が入る。1582 年、織田信長（1534-82）は本能寺の変で明智光秀（1528?-82）からの攻撃を受け、敗死する。嘉吉の変（嘉吉の乱）は 1441 年に守護赤松満祐（1373-1441）が当時の将軍足利義教（任 1429-41）を暗殺した事件である。

オ 北条氏が入る。関東の有力な戦国大名といえば北条氏で、伊達氏は東北地方を支配していた戦国大名である。以上より、正解は③である。

## 問 5 17 正解は①

難易度 ★★★★★

## 解説

- ① 正 朝鮮出兵のうち、文禄の役が起こった 1592 年は干支でいう壬辰の年、慶長の役が起こった 1597 年は干支でいう丁酉の年に当たる。この記述は正しい。
- ② 誤 日本軍は、文禄の役で漢城（現ソウル）と平壤を占領した。慶長の役では日本軍苦戦のうちに秀吉が死去し撤退したので、この記述は正しくない。
- ③ 誤 朝鮮出兵当時の中国王朝は明（1368-1644）である。この記述は正しくない。
- ④ 誤 朝鮮水軍を率いて、亀甲船によって日本軍の補給路を攪乱したのは李舜臣（1545-98）である。李成桂（1335-1408）は 1392 年に李氏朝鮮を建国した武将。この記述は正しくない。

以上より、正解は①である。

## 問 6 18 正解は④

難易度 ★★★★★

## 解説

- ① 正 喧嘩両成敗法は、甲斐国の戦国大名武田信玄（1521-73）が制定した分国法『甲州法度之次第』などに記載されている。この記述は正しい。
- ② 正 戦国大名は、指出検地によって領主や名主に対して、自分の土地の面積や収入を自己申告させることで領地を把握しようとしたので、この記述は正しい。
- ③ 正 織田信長は安土で楽市・楽座政策をとり、商工業者の自由な営業活動を認めることで、その発達を図ったので、この記述は正しい。
- ④ 誤 豊臣秀吉（1537-98）は太閤検地に際して、石高の統一的算定のために、京都で使用されていた京枅を日本全国の共通基準としたので、この記述は誤り。国家公定枅は、1072 年に後三条天皇（位 1068-72）が延久の荘園整理令（1069 年）に関連して採用した宣旨枅以来である。

以上より、正解は④である。

(制作：帆玉光輝，浦地智暉)

# 2015年度 センター試験 本試験 日本史 B

## 第4問 近世の政治経済と社会

出題範囲	近世の政治・社会史
難易度	★★★☆☆
所要時間	8分
傾向と対策	2015年度の第4問の出題は、江戸期に起こった飢饉や幕府諸藩の施政などが取り上げられた。近世の政治・社会・文化史の対応を学ぶうえで重要なのは、当時の社会状況を正確に把握しておくことである。テレビや映画の時代劇などで頻繁に取り上げられるこの時代は、戦争がない平和な期間が長く続いたため、産業が大きく発展した時代でもあった。ゆえに産業の発展に伴う社会状況の変化が、政治・経済・文化に影響を与えている場合が多い。江戸・大坂を中心とする都市の文化や社会の状況はもちろん、地方の産業や特産物といった情報も教科書をよく読み込んで広く習得しておきたい。

### A

問1 19 正解は③

難易度 ★★★☆☆

#### 解説

- ① 誤 1641～42年に発生した<sup>かんえい ききん</sup>寛永の飢饉の後、幕府は1643年に<sup>でんぱたいたいばいばい</sup>田畑永代売買の禁令を制定したため、この記述は誤りである。
- ② 誤 <sup>あげまい せい</sup>上米の制とは、1722年に8代将軍<sup>よしむね</sup>徳川吉宗（在任1716-1745）が<sup>きょうほう</sup>享保の改革中に一時的な財政補填策として実施したものであり、<sup>しん</sup>諸大名から石高1万石について100石の米を上納させた。よって、この記述は誤りである。なお、<sup>さんきんこうたい</sup>上げ米の利の代償として<sup>さんきんこうたい</sup>参勤交代の在府期間は1年から半年に減らされた。
- ③ 正 <sup>まつだいらさだのぶ</sup>松平定信（1759-1829）は、<sup>てんめい</sup>天明の飢饉を経た1791年に<sup>かんせい</sup>寛政の改革の一環として<sup>しちぶつみきん</sup>七分積金の制度を定めた。町入用（町費）の節減額のうち7割を江戸町会所に積み立てて、低利融資や貧民救済に充てた。よって、この記述は正しい。
- ④ 誤 1832～36年は全国的に凶作が相次ぎ、特に奥羽地方では多数の餓死者が出た（<sup>てんぽう</sup>天保の飢饉）。この飢饉の中で<sup>おさか</sup>大坂では米を買い占め、<sup>うり</sup>売り惜しみする<sup>とく</sup>富裕商人が現れ、米価が急騰した。よってこの記述は誤りである。この状況下で有効な対策をとれなかった<sup>おさか</sup>大坂町奉行所に対し1837年に大阪町奉行所の元与力<sup>よりき</sup>大塩平八郎（1793-1837）は武装蜂起したが、鎮圧された（大塩の乱）。
- 以上より、正解は③である。

問 2 20 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

X a 河村瑞賢<sup>すいけん</sup> (1618-1699) は江戸前期の富商で、東北地方と江戸を結ぶ東廻り<sup>ひがしまわ</sup>航路 (海運) や出羽国酒田<sup>でわのくに</sup> (現山形県酒田市) を起点に佐渡・下関<sup>さど しものせき</sup>などを経て大坂に到り、そこから紀伊半島を迂回して江戸に到る西廻り<sup>にしまわ</sup>航路 (海運) を整備した。紀伊国屋文左衛門<sup>きのくにやぶんざえもん</sup>は、江戸初期の紀伊国出身の豪商。紀州のみかんを江戸に運送して利益を上げ、材木商に進出して巨利を得た。

Y d 角倉了以<sup>すみのくらりょうい</sup> (1554-1614) は、江戸初期に富士川や天竜川、高瀬川などを開削した人物である。田中勝介<sup>たなかかつすけ</sup>は、京都の商人で徳川家康の命を受けて 1610 年にメキシコへ渡航した。

以上より X - a, Y - d の組み合わせになる②が正解である。

問 3 21 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

X 正 伊達政宗<sup>だてまさむね</sup> (1567-1636) は、1613 年に支倉常長<sup>はせくらつねなが</sup> (1571-1622) を正使とした慶長遣欧使節<sup>けいちょうけんおうしせつ</sup>をスペイン (イスパニア) へ派遣した。これはメキシコ (ノビスパン) との直接貿易を目的とするものだったが、失敗に終わった。

Y 正 佐竹義和<sup>さたけよしまさ</sup> (1775-1815) は、江戸後期の出羽国秋田藩主で、天明の飢饉後の 18 世紀終わりから 19 世紀初頭にかけて農鋤業などの奨励、製紙などの特産品生産の保護育成を行ったほか、藩校明德館<sup>はんこうめいとくかん</sup>を設立し藩政改革を進めた。

以上より X - 正, Y - 正の組み合わせになる①が正解である。

## B

問 4 22 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

ア 徳川家慶<sup>いえよし</sup>が入る。家慶は第 12 代将軍で在職期間は 1837 ~ 53 年である。水野忠邦<sup>みずのただくに</sup> (1794-1851) に天保<sup>てんぽう</sup>の改革を実施させた。一方、徳川家綱<sup>いえつな</sup>は第 4 代将軍で在職期間は 1651 ~ 80 年である。保科正之<sup>ほしなまさゆき</sup> (1611-72) らの補佐で文治政治を推進した。

イ 水野忠邦<sup>たぬまおきつぐ</sup>が入る。忠邦は 1841 年から天保の改革に着手した。一方田沼意次<sup>たぬまおきつぐ</sup> (1719-88) は、1772 年に老中に就任して 1786 年に罷免されるまで積極的な産業振興策を展開した。

以上より、正解は①である。



問 5 23 正解は②

難易度 ★★★★★☆

解説

- I 近藤重蔵<sup>じゆうぞう</sup> (1771-1829)、最上徳内<sup>もがみとくない</sup> (1755-1836) は、1798 年に択捉島<sup>えとろふ</sup>を探查し、「大日本恵登呂府」の標柱を立てた。
- II 1840 年に勃発したアヘン戦争<sup>しん</sup>で清がイギリスに大敗したという情報を受けて、1842 年に老中水野忠邦の下の天保の薪水給与令<sup>しんすいきゅう よれい</sup>が発令された。
- III 幕府は 1799 年に東蝦夷地<sup>ひがし えぞち</sup>を、1807 年に西蝦夷地を松前藩から取り上げ、全蝦夷地を直轄領とした。以上を踏まえて、年代順に I (1798 年) → III (1807 年) → II (1842 年) となる②が正解である。

問 6 24 正解は③

難易度 ★★★★★☆

解説

- a 誤 史料 1 行目に「帰住相願い候者は稀」、また史料末に「帰住の志さらにこれ無し」と書かれており、村々から無断で江戸に出てきたものの多くは江戸に住み続けたことがわかるのでこの記述は、誤りである。
- b 正 史料 3 行目～6 行目を読むと「在方(村)にては…麩食致し候者」が「御府内にへ出候ては、その日稼ぎ致し候者も美食を致し」とある。すなわち、村にいた頃は粗末な食事をしてきた者が、江戸ではその日稼ぎでも良い食事をしてきたことがわかる。よって、この記述は正しい。
- c 正 水野忠邦は、1843 年に天保の改革の一環として、江戸に流入した下層民を強制的に帰農させ農村再建を図った(人返しの法)。よってこの記述は正しい。
- d 誤 宗門改<sup>しゅうもんあらため</sup>(宗旨人別改<sup>にんべつあらため</sup>)は 17 世紀半ばにキリスト教禁教を目的として行われ始めた信仰調査である。水野忠邦は江戸の人別改め(人口調査)を強化した。よってこの記述は、誤りである。
- 以上より、b・c の組み合わせになる③が正解である。

(制作：帆玉光輝，金子智実)

# 2015年度 センター試験 本試験 日本史 B

## 第5問 明治時代の立法機関

出題範囲	近代の政治・経済・文化史
難易度	★★★☆☆
所要時間	6分
傾向と対策	2015年度の第5問の設問は、問3の明治中期の松方財政と松方デフレの出題が特徴的である。このことからわかるように、近代の日本史では政治と経済が密接に関わってくるため、政治の知識と経済の知識をひと揃いで持つことが要求される。対策としては、わからない単語が出てきたら、公民の教科書を参考にしたり、政治家の人物史や経済に関するキーワードを調べるなどして、政治と経済の知識を適宜得ながら、学習を進めていくことをお勧めする。

問1 **25** 正解は④

難易度 ★★★★★☆

### 解説

- ア **左院**が入る。三院制は1871年**廃藩置県**が行われた直後に導入された制度で、**左院**は立法府を担っていた。**枢密院**は大日本帝国憲法下の**天皇の最高諮問機関**である。1888年に憲法草案審議のために設置された。
- イ **漸次立憲政体樹立の詔**が入る。これは**明治六年の政変**後の1875年に開かれた**大久保利通**（1830-78）、**木戸孝允**（1833-77）、**板垣退助**（1837-1919）らによる**大阪会議**を経て太政官が発したもので、これにもとづいて左院に代わる立法機関として**元老院**が設置された。**立志社建白**は1877年、立志社社長の**片岡健吉**（1843-1903）が中心となって提出したもので、以後の**自由民権運動**に大きな影響を及ぼした。
- 以上より、正解は④である。

問2 **26** 正解は③

難易度 ★★★★★☆

### 解説

- X **b** **モッセ**（1846-1925）は、1886年に来日して明治憲法や**市町村制**などの**地方自治制の成立**に尽力した。**シュタイン**（スタイン、1815-90）は、渡欧した**伊藤博文**（1841-1909）に**プロイセン憲法**を教授した人物である。
- Y **c** **黒田清輝**（1866-1924）は洋画家であり、フランスで絵画を学んだ後、**印象画の画法**を日本に伝えた。また、洋画団体の**白馬会**を創立した。『**読書**』や『**湖畔**』が代表作である。**萩原守衛**（1879-1910）は**彫刻家**であり、代表作は『**坑夫**』や『**女**』である。
- 以上より、X - b、Y - cの組み合わせになる③が正解である。

## 問3 27 正解は④

難易度 ★★★☆☆

## 解説

- ① 誤 <sup>やはたせいてつじよ</sup>八幡製鉄所は、1901年に官営の製鉄所として操業を開始したので、この記述は誤りである。
- ② 誤 1880年代は<sup>まつかたざいせい</sup>松方財政の影響で<sup>まつかた</sup>松方デフレが起り、定額金納の地租に苦しんだ<sup>じざい</sup>自作農の一部は農地を手放して<sup>せいじぬし</sup>小作農に転落した。この頃より<sup>せいじぬし</sup>寄生地主（自らは農業経営をせず、小作人からの小作料に依存する<sup>だいしゆ</sup>大地主）が増加し、小作地率が上昇していった。
- ③ 誤 寄生地主の中には株式や公債、銀行への投資を積極的に行い、地方名望家として地方政治にかかわるものが多くいた。
- ④ 正 官営工場の払い下げは、払い下げ条件を厳しく定めていた<sup>がいそく</sup>工場払い下げ概則が1884年に廃止されたことで本格的に進んだ。よってこの記述は正しい。
- 以上より、正解は④である。

## ◆参考 松方財政

明治初期の<sup>おおくらきやう</sup>大蔵卿、<sup>おおくましげのぶ</sup>大隈重信（1838-1922）による積極的財政政策は、<sup>ふかん</sup>不換紙幣（金や銀と交換できない、いわば「中身のない紙幣」）を乱発したことや、輸入超過による<sup>せい</sup>正貨（金貨や銀貨など、額面と同じ値打ちを持った貨幣）流出を招いたことで、<sup>せい</sup>激しいインフレーションを引き起こしていた。明治十四年の政変によって大隈重信が<sup>げや</sup>下野したことで1881年に大蔵卿となった<sup>まつかた</sup>松方正義（1835-1924）は、このインフレを抑え込むために1881年から85年までに以下のような財政政策を行った。

○増税（歳入増加）と緊縮財政（歳出減少）により確保した剰余金で正貨を蓄積する。

○不換紙幣を回収して紙幣流通量を減少させる。

○1882年に設立した<sup>だかん</sup>日本銀行から銀兌換紙幣（銀と交換できる紙幣）を発行し<sup>だかん</sup>銀本位制を確立する。

以上のような<sup>まゆ</sup>デフレーション政策は、<sup>まゆ</sup>繭や米などの農作物価格の暴落を引き起こし、農村の窮乏を招いた。これによって農地を売却する自作農が多くなり、一部は小作農へ転落し、一部は都市に流入して資本家の下で労働者となった。こうした中で生活が苦しくなった農民の一部が蜂起活動に走り、<sup>ちちぶ</sup>秩父事件などの<sup>じゆう</sup>自由党による激化事件が相次いだ。しかし、その一方で銀本位制が確立したことで通貨が安定し金利が下がったため、1886年からは<sup>ぼっこう</sup>企業勃興期が始まった。そして、1897年には<sup>にっしやう</sup>日清戦争による賠償金を元に、当時の国際社会でスタンダードとなっていた<sup>だかん</sup>金本位制が確立し、日本の資本主義化の基盤が形成された。

問 4 28 正解は③

難易度 ★☆☆☆☆

**解説**

- X 誤 史料 3～4 行目に「主要なる幹線すら尚且つ数箇の管理に分れて居るという有様」とあり、**鉄道国有法案の提出時には複数の鉄道会社が経営していたことがわかるので**、この記述は誤りである。
- Y 正 史料 4～5 行目に「軍事に経済に国家はいかなる不利を被って居りますか」とあり、これを改善するために**鉄道国有法案が提出されたことがわかるので**、この記述は正しい。
- 以上より、正解は③である。

(制作：帆玉光輝，金子智実)

# 2015年度 センター試験 本試験 日本史 B

## 第6問 作家・林芙美子とその時代

出題範囲	近代の政治・社会・文化史
難易度	★★★★★
所要時間	10分
傾向と対策	2014年度に引き続いて、第6問は一人の人物に焦点を当てた問題が出題された。小問で問われる内容も専門的なものが多く、苦しんだ受験生も多かったのではないだろうか。問2に出てくる教科書では羅列的にしか書かれていないキーワードは、そのままでは覚えにくい。こうしたキーワードに対処するためには、これらについてどれだけ豊かで専門的な知識を習得するかが重要になってくる。例えば、小説『大菩薩峠』の書名だけを覚えるだけでなく、その内容や作者を含めた周辺の情報にまで手を延ばして貪欲に知識を蓄えておくと、詰め込み学習に頼るよりも入試本番で慌てず落ち着いて解答できるようになれるので、試してみてください。

### A

問1 29 正解は④

難易度 ★★★★★☆

#### 解説

- ① 誤 日本初のメーデーは、1920年に東京の上野公園で開催された。対して、集会条例は自由民権運動の高まりを受けて1880年に公布され、1890年の集会及政社法、1900年の治安警察法に継承された法令である。同メーデーは集会条例によって中止されていないので、この記述は誤りである。
- ② 誤 戒厳令とは、日本では天皇大権により非常事態に際して軍隊に治安権限を与えるものである。1905年の日比谷焼き討ち事件や1923年の関東大震災、1936年の二・二六事件などが起きたときに発令された。小作争議を取り締まるために発令されるものではないので、この記述は誤りである。
- ③ 誤 1923年、関東大震災の混乱の中で起きた甘粕事件で、憲兵大尉の甘粕正彦（1891-1945）に殺されたのは無政府主義者の大杉栄（1885-1923）と伊藤野枝（1895-1923）夫妻なので、この記述は誤りである。北一輝（1883-1937）は『日本改造法案大綱』を執筆し、右翼・青年将校に大きな影響を与えた人物。1930年代には、この本に影響を受けた者が暗殺事件やクーデターを相次いで起こした。
- ④ 正 特別高等警察（特高）は1928年の三・一五事件後に全国各道府県の警察にも設置され、治安維持法にもとづいて、思想犯・政治犯を取り締まった。

以上より、正解は④である。

問 2 30 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

- ① 正 <sup>なかざとかいざん</sup>中里介山 (1885-1944) は 1913 年に『<sup>だいぼさつとうげ</sup>大菩薩峠』を発表し、<sup>いしずえ</sup>大衆文学興隆の礎を築いた。『大菩薩峠』は<sup>こうしゅう</sup>甲州大菩薩峠に始まる剣客・机竜之助の旅を描いている。よって、この記述は正しい。
- ② 正 <sup>こばやし たきじ</sup>小林多喜二 (1903-33) は、代表的な<sup>かにこうせん</sup>プロレタリア作家で、1929 年に『<sup>かにこうせん</sup>蟹工船』を発表した。『蟹工船』は、劣悪で過酷な労働環境の「蟹工船」で起きた労働者と監督との戦いを描いている。よって、この記述は正しい。
- ③ 誤 『太陽』は 1895 年創刊の<sup>そんごう</sup>総合雑誌である。内容は多岐に渡り、執筆陣はトップレベルの学者・作家・政界人などであった。昭和初期に<sup>たいしやく</sup>大衆娯楽誌として人気を博したのは 1925 年発刊の『<sup>キング</sup>キング』である。この雑誌にはグラビア・写真・大衆小説などが掲載されており、一時期驚異の発行部数を誇った。よって、この記述は誤りである。
- ④ 正 大正期の不況を打開するために、出版された定価 1 円均一の<sup>えんぽん</sup>円本は、1926 年から登場し大流行した。よって、この記述は正しい。
- 以上より、正解は③である。

問 3 31 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

- X 誤 『<sup>ひぼかんのん</sup>悲母観音』は、1888 年に<sup>かのうほうがい</sup>狩野芳崖 (1828-88) が描いた日本画であるので、この記述は誤りである。
- Y 正 <sup>にかかい</sup>二科会は、1914 年に結成された<sup>やさいそうたろう</sup>洋画界の有力な団体である。<sup>やすいそうたろう</sup>安井曾太郎 (1888-1955) は、一時期この会に参加していたので、この記述は正しい。
- 以上より、X - 誤、Y - 正の組み合わせになる③が正解である。

## B

問 4 32 正解は①

難易度 ★★★★★☆

解説

- ア <sup>とうじょうひでき</sup>東条英機 (1884-1948) が入る。<sup>とうじょうひでき</sup>東条英機は 1941 年～ 44 年まで首相を務めており、在職期間中に対米英開戦を決断し、戦後に<sup>とうきょうさいばん</sup>東京裁判で A 級戦犯として死刑となった。一方、<sup>かんとらう</sup>鈴木貫太郎 (1867-1948) は 1945 年 4 月～ 8 月 15 日の間首相を務め、戦争終結に大きく貢献した。
- イ <sup>そかい</sup>疎開が入る。<sup>そかい</sup>疎開とは、<sup>くわい</sup>空襲の被害を避けるために、都市から人々・物資などを地方に分散させることを指す。<sup>ふくいん</sup>復員とは終戦後に<sup>りく</sup>陸・<sup>かい</sup>海軍人が動員を解除されて、各家庭に帰ることを指す。
- 以上より、正解は①である。

問 5 33 正解は④

難易度 ★★★★★

## 解説

- a 誤 日中戦争は、互いに正式な宣戦布告がない状態で開戦・拡大した。第1次近衛文麿内閣（1937-39）は全面戦争への決意を示すことなく、戦線を拡大しただけなので、この記述は誤りである。
- b 正 日中戦争は、1937年7月に北京郊外で起こった盧溝橋事件に端を発した。政府は当初は不拡大方針をとっていたが、8月に第二次上海事変が起こり、日中戦争は全面化した。よって、この記述は正しい。
- c 誤 小説も検閲の対象とされ、例えば、石川達三（1905-85）の『生きてゐる兵隊』は日本軍による残虐行為を描写しており、発禁処分となった。よって、この記述は誤りである。
- d 正 転向とは、弾圧などによって社会主義・共産主義者にその思想を放棄させ、保守主義・国家主義者に転じさせること。満州事変後、佐野学や鍋山貞親をはじめとする共産主義者は政府の弾圧によって次々と国家主義者へと転向させられた。プロレタリア文学者も同様に転向を迫られ、自らの転向による心理の変化や生活の変化を作品として書いた転向文学が生まれた。よって、この記述は正しい。
- 以上より、bとdの組み合わせになる④が正解である。

問 6 34 正解は①

難易度 ★★★☆☆

## 解説

- X a 日中戦争勃発時に中華民国の首都が置かれていたのは南京（a）である。この後、日中戦争が長期化してくると、中華民国は首都を漢口、さらにその奥地の重慶（b）に遷して抗戦を続けた。
- Y c 東南アジアにおけるイギリス領はマレー半島である。シンガポール（c）は、その中でも重要な貿易・軍事の拠点であった。dはオランダ領ジャワ島のバタヴィア（現ジャカルタ）である。
- 以上より、X - a、Y - cの組み合わせになる①が正解。

## C

問 7 35 正解は①

難易度 ★★★★★

## 解説

- a 正 1945年の衆議院議員選挙法改正によって、満20歳以上の男女に選挙権が与えられた。戦後初の衆議院議員選挙は改正後の1946年4月に実施された。よって、この記述は正しい。
- b 誤 戦後初の総選挙で勝利したのは鳩山一郎（1883-1959）率いる日本自由党であったが、5月に鳩山が公職追放されたため、吉田茂（1878-1967）が代わりに総裁となり、第1次吉田茂内閣（1946-47）が組閣された。よって、この記述は誤りである。



- c 正 1946 年以降、GHQ は軍国主義者を公職などから次々と排除していったが、大政翼賛会<sup>たいせいよくさんかい</sup>に参加した戦時政治家も公職追放の対象となったため、戦後初の総選挙に立候補できなかった。よって、この記述は正しい。
- d 誤 日本国憲法案を審議したのは衆議院と貴族院<sup>しゅうぎいん</sup>からなる帝国議会である。参議院<sup>さんぎいん</sup>は日本国憲法によって新しく設置された。よって、この記述は誤りである。
- 以上より、a と c の組み合わせになる①が正解である。

## 問 8 36 正解は②

難易度 ★★★☆☆

## 解説

- ① 誤 日ソ中立条約は 1941 年に、ソ連は独ソ戦を見越して、日本は北守南進策を遂行するために締結した条約なので、この記述は誤りである。
- ② 正 1945 年 8 月のソ連対日参戦によって中国に取り残された満蒙開拓団<sup>まんもう</sup>の中には、子供を現地の中国人に託して帰国した人々も多く、その子供たちは中国残留孤児<sup>ざんりゅうこじ</sup>と呼ばれた。この記述は正しい。
- ③ 誤 国民徴用令<sup>こくみんちようようれい</sup>は、1939 年に国家総動員法にもとづいて発令されたもので、国民を強制的に軍需徴発<sup>ぐんじゅちようはつ</sup>した。GHQ が発令したものではないので、この記述は誤りである。
- ④ 誤 1950 年に朝鮮戦争が勃発した際、米軍による武器の修理や弾薬の製造など膨大な特需<sup>とくじゅ</sup>が発生したことで日本経済は戦前の水準まで回復したのであり、米軍が供出した物資で国民の生活水準が上昇したのではないので、この記述は誤りである。
- 以上より、正解は②である。

(制作：帆玉光輝，浦地智暉)